

3月保健ガイド

母子保健・予防接種

問 子ども家庭課 ☎56-0210

内容(予は要予約)	とき	対象(対は対象)
保健センター 親子健康手帳交付 パパママ教室(1回目) ※定員9組 パパママ教室(2回目) ※定員 平日6組 土日9組	6日(木) 24日(月)	10:00 集合 妊婦
	11日(火)	10:00開始～ 11:00終了予定 主に妊娠6か月頃までの初妊婦とそのパートナー
	6日(木) 16日(日)	13:15受付～15:30終了 9:15受付～11:30終了 主に妊娠7か月以降の初妊婦とそのパートナー
妊婦訪問	訪問は予約制です。(希望者は保健センターへ連絡してください)	
こんにちは赤ちゃん訪問	3～4か月児健診受診前 すべての赤ちゃんとその保護者	
のびのび 計測日※1 保健センター	5日(水)	10:00～10:30受付 未就園児※1医師の診察はありません ※親子(母子)健康手帳・乳児の場合はバスタオル
妊産婦歯科健康診査	予約してから、市内委託医療機関で受診してください 妊婦と産後1年未満の産婦	

市内委託医療機関で予約	予 ロタウイルス	対 1価ワクチン 出生6～24週 5価ワクチン 出生6～32週
	予 B型肝炎	対 生後1歳未満
	予 ヒブ、小児用肺炎球菌	対 生後2～60月に至るまで
	予 4種混合、5種混合	対 生後2～90月未満
	予 BCG	対 生後1歳未満
	予 麻しん・風しん混合(MR)	対 第1期 生後12～24月未満 第2期 小学校入学前の1年間
	予 水痘	対 生後12～36月未満
	予 日本脳炎	対 1期 生後6～90月未満、2期 9～13歳未満 救済制度により対象以外で接種可能な場合あり
	予 二種混合	対 11～13歳未満
	予 HPV 2価・4価・9価	対 小学6年生～高校1年生の女子 ※キャッチアップ接種を実施しています

成人保健・予防接種

問 健康推進課 ☎63-3300

予防接種	予 高齢者インフルエンザ	対 65歳以上の人または60～65歳未満で心臓・腎臓・呼吸器の機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能などに障がいがある人
	予 高齢者新型コロナ	
	予 高齢者肺炎球菌	対 65歳の人または60～65歳未満で心臓・腎臓・呼吸器の機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能などに障がいがある人

※2024年度は高齢者インフルエンザ・高齢者新型コロナの定期予防接種の実施期間を3月31日まで延長。

<任意予防接種助成> 風しんワクチン、帯状疱疹ワクチンの接種費用の一部を助成します(対象者に限る)。
※今年度接種を希望する65歳以上の人の帯状疱疹ワクチンの助成申請は3月14日まで

その他お知らせ

市税の3月の納期限は
ありません。

日曜・祝日の受診は

東名古屋医師会休日急病診療所
☎0561-73-7555

診療日時	日曜・祝日・年末年始 9:00～16:30 (昼休憩1時間あり)
診療科目	内科・小児科
所在地	日進市蟹甲町中島22

急な病気・ケガの時は

救急医療情報センター
☎0561-82-1133



24時間365日対応可。症状に応じてその
時診療できる最寄りの医療機関を案内。

愛知医科大学病院 時間外診療

救急でかかりつけ医が開いていない場合、診療を受けることができます。
まず、電話で相談してください。
☎0561-62-3311(代表)

なお、時間内、時間外問わず、紹介状なしで受診する等の場合、選定療養費が必要になることがあります。詳しくは愛知医科大学病院へお問い合わせください。

まちの保健師

保健師がさまざまな場所に出向き、健康相談をお受けします。
詳細は市HPへ。



ドクターからあなたへ

妊娠中から産後にかけて切れ痔やいぼ痔などの肛門疾患の頻度が高くなります。切れ痔とは、肛門付近の皮膚が裂けた状態で主に便秘で硬い便が肛門を通過する際に起こります。いぼ痔は肛門クッション(肛門付近の皮膚や粘膜と筋肉の間の支持組織)がうっ血して膨らむことで起こります。妊娠が成立すると、プロゲステロン(P4)という女性ホルモンの分泌が増えます。妊娠9週頃までは妊娠黄体からP4が分泌され、それ以降は胎盤から分泌されます。P4の作用で腸の運動が低下し、腸内の水分も少なくなり硬い便となります。また妊娠が進むと、子宮により腸が圧迫され、さらに便秘となります。妊娠後期になると、体内の血液量は非妊娠時と比べて約1.5

妊娠、出産と肛門疾患

エム産婦人科外科クリニック 森本翔太

倍にも増加します。肛門周囲への血液量が増えますが、子宮が大きくなり戻れる血液量は少なくなり静脈がうっ血します。このため、肛門疾患になりやすい条件が揃います。肛門疾患の治療の基本は、便通管理、食生活改善、痔疾軟膏の使用ですが、これらで改善しない場合は根治術(いぼ痔を切る、ジオン注射、狭くなった肛門を広げる等の手術)が必要となります。妊娠、授乳中は薬剤の胎児移行性や、早産リスクの上昇などから、根治術は積極的には行えません。肛門疾患があり、妊娠を考えている人は妊娠前の治療をお勧めします。また妊娠中に肛門疾患が悪化した場合は、積極的に緩下剤と痔疾軟膏を使用し、悪化しないように心掛けましょう。